**12 平野啓一郎『本の読み方　スロー・リーディングの実践』**

『こころ』は上「先生と私」・中「両親と私」・下「先生と遺書」という三部構成になっている。教科書に採用されているのは、第三部の「先生と遺書」が多いようだ。（中略）しかし、教科書などではしばしば省略されてしまう〈上〉、〈中〉がムダに存在しているわけでは、もちろん、ない。それらは当然に、〈下〉を準備する重要な意味を持っている。（中略）

　「先生先生というのはいったいの事だい」と兄が聞いた。

　「こないだ話したじゃないか」と私は答えた。私は自分で質問しておきながら、すぐの説明を忘れてしまう兄に対して不快の念を起した。

　「聞いた事は聞いたけれども」

　兄聞いてもらないとうのであった。私から見ればなにも無理に先生を兄に理解してもらう必要はなかった。けれども腹は立った。また例の兄らしいところが出て来たと思った。

先生先生と私が尊敬する以上、その人は必ず著名の士でなくてはならないように兄は考えていた。少なくとも大学の教授ぐらいだろうと推察していた。名もない人、何もしていない人、それがどこに価値をもっているだろう。兄の腹はこの点において、父と全く同じものであった。けれども父が何もできないから遊んでいるのだと速断するのに引きかえて、兄は何かやれる能力があるのに、ぶらぶらしているのはつまらん人間に限ると云った風をらした。（後略）  
 夏目『こころ』（ちくま文庫『夏目漱石全集〈８〉』）

さて、一読してどんな印象を持っただろうか？　明治の文豪漱石というので敬して遠ざけていた人は、意外と読みやすいという感想ではないだろうか？

まずは、冒頭の「先生先生というのはいったい誰の事だい」という言葉から始めよう。主人公に対するこの兄からの問いかけは、実は、読者の声の代弁にもなっている。『こころ』は、ご存じの通り、「私はその人を常に先生と呼んでいた」という一文から始まる。小説家は、冒頭の一文に非常に気をつかうので、この「先生」という言葉は、作品のキーワードの一つと考えて構わないだろう。こうしたこまめな推理は、結果として違っていても構わないという程度に頭の片隅に置いておく。その考えに拘束されず、さりとて、まったく意識しないというのでもない、という感覚である。

そういう意味では、さりげないながらも、この「先生先生というのはいったい誰の事だい」という一文は、小説の冒頭と呼応している。こうした作品内の言葉の響き合い、呼応関係をむことができると、小説全体の構造の見通しが急によくなることがある。

読者は、ここまでずっと、この謎のような「先生」に対して疑問を抱き続けている。教師でもなければ、医者でもない。なんで、「先生」なのだろう？

そうした読者の疑問は、作者も予感していたはずだ。そしてここでは、兄を通じて、その読者の声を作品内に引き込み、それに応じようとしているのである。

語　注

必竟＝畢竟のこと。結局。つまるところ。

口吻＝口ぶり。言い方。

問1　この文章中の引用文にＸさんは注目し、「先生」に対する「兄」と「父」の考え方の違いをノートにまとめた。空欄Ｙ・Ｚに当てはまる言葉をそれぞれ指定字数内で答えよ。（10点×2）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 兄＝　　Ｚ（20字以内）　と判断 | ⇔ | 父＝何もできないから遊んでいると決めつける | 【「兄」と「父」の考えの相違点】 |  | →　　Ｙ（15字以内）　＝　価値なし | くらいであるべき | 私が尊敬する先生＝著名の士、少なくとも大学教授 | 【「兄」と「父」の考えの共通点】 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

Ｙ＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

Ｚ＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問2　二重傍線部「ムダに存在しているわけでは、もちろん、ない」とあるが、このように筆者が述べるのはなぜだと考えられるか。本文の具体例に沿って六十字以内で説明せよ。（20点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問3　この文章を読んだ生徒の意見のうち、本文に即していないものを次から一つ選べ。（10点）

Ａさん―　『こころ』には現代人が好む仕掛けがあるね。漱石の先進的技巧や推理仕立ての展開には脱帽させられたよ。

Ｂさん―　作中の言葉のつながりに注目して『こころ』をじっくり再読すると、今までとは異なる新たな発見がありそうだよね。

Ｃさん―　「先生」の人物像はつかみづらいと思って読んでいたけれど、作中に読み解くためのさまざまなヒントがあったんだね。

Ｄさん―　教科書では省略されがちな〈上〉〈中〉も作品全体に大きく関わるのか。一から読み直すと印象が変わるかもしれないな。

〔　　　〕

【解答】

問1　Ｙ＝名もない人、何もしていない人（14字）

　　　Ｚ＝能力があるのに何もしないのは愚かだ（17字）

問2 ａ読者の疑問を代弁する描写が、ｂ次の節の準備やｃ作品内の言葉の呼応関係を示し、ｄ作品全体の構造の見通しに役立つから。（54字）

問3　Ａ